

# 開示データ

## 環境目標／実績

	取り組み課題・目標	2019年度実績	評価	2020年度目標	中長期目標
地球温暖化防止	スコープ1,2のGHG排出量の削減 35%減 (売上原単位2010年度比)	45.3%減 (売上原単位2010年度比)	○	5%減 (2018年度比)	2022年度 10%減 (2018年度比) 2030年度 30%減 (2018年度比)
	エネルギー使用量の削減 <sup>※1</sup> 33%減 (売上原単位2010年度比)	34.7%減 (売上原単位2010年度比)	○	2%減 (2018年度比)	2022年 4%減 (2018年度比)
環境負荷の把握	サプライチェーンの環境負荷の把握 単体：スコープ3開示 グループ会社：環境基礎データ把握	スコープ3：399,393t-CO2 一部グループ会社の 環境基礎データ把握	○	サプライチェーンGHG削減に向けた 体制の構築、自社の水利用把握と対応 ①取水・排水の現状把握 (と対応) ②水ストレス地域の特定	—
資源循環	廃棄物総発生量の削減 15%減 (売上原単位2010年度比)	5.5%増 (売上原単位2010年度比)	×	2%減 (2018年度比)	2022年度 4%減 (2018年度比)
	不要物のリサイクル率の向上 70%	80.1%	○	81%	2022年度 83%
	事務用品のグリーン購入 65%	60.3%	×	—	—
生物多様性と化学物質 による汚染の回避	1. ホルムアルデヒド放出量の 計測・監視継続 2. 化学物質使用状況の把握	1. 計画通り進捗 2. 計画通り進捗 毒物及び劇物指定令の一部改正に伴い、 仕入先に対し使用状況の確認を実施	○	1. ホルムアルデヒドの継続監視 2. 管理対象物質の把握 (AIS、SDS) 3. サプライチェーン化学物質管理	—
商品を通じた 地球環境保全	1. 環境配慮型商品の開発 2. 商品環境情報の数値化と開示	・ 光拡散壁紙でのCO2削減量の開示 ・ カーベットタイルNT3000ecoでの エコマーク取得 ・ 再生糸100%カーテンの開発	○	1. 環境商品売り上げ比率の把握 2. 環境配慮商品の開発	—

## 関連データ

	2017年度	2018年度	2019年度
GHG排出量 スコープ1 (t-CO2)	2,336	2,326	2,365
GHG排出量 スコープ2 (t-CO2)	5,884	5,792	4,273
GHG排出量 スコープ3 (t-CO2)	424,924	401,791	399,393
GHG排出量 スコープ1 & 2 (t-CO2)	8,220	8,118	6,638
GHG排出量 スコープ1.2 & 3 (t-CO2)	433,145	409,909	406,032
エネルギー使用量 (Gj)	132,292	127,535	127,178
リサイクルされた廃棄物の排出量 (t)	2,140	2,463	3,060
非リサイクル廃棄物の排出量 (t)	1,327	1,231	902
有害廃棄物 (医療用、指定有害) の排出量 (t)	0	0	0
廃液の流出量 (m <sup>3</sup> )	0	0	0
環境に関する罰金および処罰のコスト (円)	0	0	0

## 水利用量

単位：m<sup>3</sup>

	2019年度	
	取水量	排水量
北海道支社 (旭川市、函館市)	10	10
東北支社 (仙台市、盛岡市、郡山市、青森市、山形市)	594	594
北関東支社 (喜久市、前橋市、宇都宮市、水戸市、新潟市、長岡市、松本市)	866	866
東京支社 (品川区、立川市、甲府市、横浜市、厚木市)	2,824	2,824
本社・中部支社 (名古屋市、稲沢市、津市、岐阜市、岡崎市、金沢市、富山市、浜松市、沼津市)	14,745	14,745
関西支社 (尼崎市、東大阪市、京都市、神戸市、和歌山市)	5,196	5,196
中国四国支社 (岡山市、鳥取市、松江市、広島市、山口市、福山市、松山市、高知市、徳島市)	1,065	1,065
九州支社 (福岡市、西彼杵郡、大分市、熊本市、宮崎市、鹿児島市)	1,787	1,787
合計	27,087	27,087

※ 生活用水が中心の為、取水量・排水量は同量としています。

## 環境会計

※環境省の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に作成しています。

※対象期間は2019年4月～2020年3月とし、集計対象は株式会社サンゲツ単体のみで、グループ会社は含みません。

### 環境保全コスト

単位：百万円

分類	主な取組み内容	2017年度		2018年度		2019年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト		214.3	407.8	221.7	386.5	11.3	366.2
内訳	公害防止コスト	—	25.9	—	1.0	—	1.0
	地球環境保全コスト	214.3	222.4	221.7	222.7	11.3	157.6
	資源循環コスト	—	159.5	—	162.8	—	207.6
上・下流コスト	グリーン購入、商品リサイクル、シックハウス対応等	—	8.7	—	7.7	—	3.5
管理活動コスト	環境マネジメントシステムのPDCA活動、緑化等	1.4	12.6	1.4	9.3	—	5.0
研究開発コスト	環境対応商品の開発等	—	11.2	—	11.9	—	10.2
社会活動コスト	自然環境保全活動、団体への寄付、支援等	—	1.2	—	2.0	—	2.0
環境損傷対応コスト	環境汚染の修復・保全	—	0.0	—	0.0	—	0.0
合計		215.7	441.5	221.3	417.4	11.3	386.9

### 環境保全効果

分類	環境パフォーマンス指標 (単位)	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動に投入する資源 に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (Gj)	132,292	127,535	127,178
	水資源投入量 (m <sup>3</sup> )	33,289	26,974	27,087
事業活動から排出する環境負荷 及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	8,306	8,118	6,638
	廃棄物総排出量 (t)	3,688	3,695	4,195
	総排水量 (m <sup>3</sup> )	33,289	26,974	27,087
事業活動から産出する財・サー ビスに関する環境保全効果	商品軽量化による CO <sub>2</sub> 削減 (t) ※フロアタイル： CFP取得点を算出	22,863	21,720	23,145
その他の環境保全効果	太陽光設置による電 力創出 (kWh)	520,798	532,137	520,549

※ 2019年度は、廃番及び特注品在庫分の増加や本社5階の改装などが増加の要因となっています。

## 環境保全対策に伴う経済効果

単位：百万円

分類	主な取組み内容	2017年度	2018年度	2019年度
費用削減	梱包資材（床材出荷時の紙管等）リユース	23.3	19.0	-
	エコドライブ化による燃料費削減	5.9	5.5	11.3
収益	太陽光設置に伴う収益	20.2	20.7	20.4
	廃棄物の有価物化による売却益	2.1	2.0	1.8